

12 月企画公演 「鏡」

劇団こだま
12 月企画公演

鏡

作・演出
名原僚造

12 月企画公演 「鏡」

登場人物・配役

ユウ 柏倉肇
ミカ 佐藤鈴奈
チカ 丸山怜音
ナナ 高久瑛理子
スナ 村元今日子

◎ 音響に関するト書き
☆ 照明に関するト書き

場 0	客入れ	P3
場 1	プロローグ	P4
場 2	日常	P6
場 3	出会い	P12
場 4	夢現	P16
場 5	願い、望み	P20
場 6	決意も覚悟も	P24
場 7	問答	P26
場 8	日常の壊れる日	P28
場 9	遡行	P31
場 10	エピローグ	P33

場 0 客入れ

◎客入れM

☆客入れあかり

開演 15 分前

役者が一人出てくる。一礼。

役者

本日は劇団こだま 2016 年 12 月企画公演「鏡」にお越しいただき誠にありがとうございます。当公演上演時間約七〇分を予定しております。途中休憩等ございません。御用のお済でない方はあらかじめお済ませください。お手洗いは扉をでて左側となっております。また、場内大変寒くなります。ブランケットの貸し出しを行っております。ご入用の方は係の者に申しつけください。それでは、開演まで今しばらくお待ちください。

一礼。役者はける。

開演 21 分前

役者が一人出てくる。一礼。

役者

本日は劇団こだま 2016 年 12 月企画公演「鏡」にお越しいただき誠にありがとうございます。当公演上演時間約七〇分を予定しております。途中休憩等ございません。御用のお済でない方はあらかじめお済ませください。お手洗いは扉をでて左側となっております。開演に先立ちましていくつかお願い事がございます。携帯電話、時計のアラーム等、音や光を発する電子機器はあらかじめ電源からお切りください。マナーモードやサイレントモードでありましても、他のお客様の観劇の妨げとなる場合がございます。なにとぞ電源からお切り頂くようお願い致します。飲食、喫煙、許可のないビデオ撮影等は禁止となっております。また、場内大変寒くなります。ブランケットの貸し出しを行っております。ご入用の方は係の者に申しつけください。それでは、開演までもう少々お待ちください。

一礼。役者はける。

開演時間

12 月企画公演 「鏡」

役者が一人出てくる。一礼。

役者 本日は劇団こだま 2016 年 12 月企画公演「鏡」にお越しいただき誠にありがとうございます。うございます。もう間もなく開演いたします。どうぞお席にておまちください。

一礼。役者はけずに一点を凝視。表情が抜け落ちる。
糸が切れたように崩れ落ちる。

◎FO

☆暗転

場 1 プロローグ

☆明転

ST 台車を転がしながら登場。崩れ落ちた役者を台車に載せ、舞台の凹部分に打ち捨てる。
一瞥し、階段に腰掛ける。

女（ナナ）登場。

ナナ おはよう。

ミカ ……。

ナナ そう。おはよう。もう朝なのよ。ふふつ、驚いた？

ミカ ……。

ナナ 夢をみていたの？

ミカ ……。

ナナ どんな夢？

ミカ ……。

ナナ そう。楽しかった？

ミカ ……。

ナナ あら。そう。

ミカ ……。

ナナ ええ。そうね。

ミカ ……。

ナナ ええ、わかつてる。だから、そんな悲しそうな声ださないで。

ミカ ……。

ナナ ほうら。私はどこにも行かないわ。

ミカ ・ ・ ・

ナナ そうよ。私はあなたなしでは生きていけないの。

ミカ ・ ・ ・

ナナ だから、そんなこと忘れましょ？

ミカ ・ ・ ・

ナナ ねえ、いいでシヨ？

ナナ、ミカの首筋に顔を近づける。

ST あれは狂っている。

ミカ ・ ・ ・

ST 別に侮蔑しているわけではない。ただの事実だ。

ミカ ・ ・ ・

ST わかった。気分を害したのなら謝ろう。

ミカ ・ ・ ・

ST ああ。わかっている。別に忘れたわけではないさ。

ミカ ・ ・ ・

ST ふむ。手厳しいな。

ミカ ・ ・ ・

ST 目星はつけたさ。男と女どちらが好みだい？

ミカ ・ ・ ・

ST ハハ。そうカツカするな。冗談さ。

ミカ ・ ・ ・

ST まあ、楽しみ給えよ。これはキミの望んだ結果だろう？

ミカ ・ ・ ・

ST 立ち上がる。はける。

ナナ あら、つれないのね。

ミカ ・ ・ ・

ナナ はあ、いいわ、また今度にするわね。

ミカ ・ ・ ・

ナナ 謝る必要なんてないわよ。空気の読めないアレのせいなのだから。

ミカ ・ ・ ・

ナナ 新しい子が来るのでしょうか？私は棄てられるのかしら？

ミカ ……

ナナ フフ。冗談よ。そんなに焦らないで。

ミカ ……

ナナ ええ、そうね。チョット待ってね。準備してくるわ。

男登場。ミカを抱える。

男 物語は望んだ結果にならなかった。何回やっても失敗する。何回も何回も何回

も何回も何回も。でも、たった一回。一回だけ成功した。結果だけを見れば成功だ。牢獄から彼女を連れ出す。家畜以下の扱いを受けていた彼女を連れて逃げる。他の全てをなげ棄てた。その結果だけを求めた。でないと、連れ出すことすらできなかった。もう何回目かも数えていない。千を超えてから数えるのをやめた。そのうちの一回。1パーセントにも満たない。必至に動いて、動き続けて、気が付いたら。壊れていた。彼女も。自分自身も。

男 致命的な欠陥に気付いた。理由だ。理由が存在しない。彼女を連れ出したい理

由。あったのだろう。でも、思い出せない。いつの間にか脅迫観念にかられていた。だから成功しない。核がないから。歴史はあらゆる可能性の内の一つでしかない。無数の選択肢の組み合わせのうちの一つ。失敗したら既存の選択肢を選びなおせばいい。単純なことだ。でも、いま出ている選択肢が本当にすべてなのだろうか。わからない。少なくとも核のない自分には。

男 最後の一回。次で最後。今までの積み重ねを忘れて、もう一回。「忘れること

はできても、なかったことにはできない。」まだ、核が存在した自分。これに賭ける。勝率は高くない。でも、やってみる価値はある。

☆暗転

場2 日常

◎ノック音

チカ おはよう。ユウ君。

チカ ねえ、朝だよ。起きて。

チカ ちよつと、起きてるの？おーい。

チカ …。いい加減起きろお！

☆明転

チカ まったく…。祝日だからってゴロゴロしすぎ。…どうしたの？

ユウ え？

チカ 泣きそうな顔してる。

ユウ …。

チカ …。

ユウ 夢。

チカ え？

ユウ 夢を見てた。悲しい夢。

チカ …。

ユウ ほしかったモノがあつた。ようやく手に入れたと思ったのに、壊れてた。

チカ 何の話？

ユウ …。

チカ …。

ユウ 分かんない。

チカ そっか。

ユウ うん。

チカ …。

ユウ …。

チカ …。ご飯にしょ。せっかく作ったのに、早くしないと冷めちゃうよ。

ユウ うん。そうだね。…チカ。

チカ うん？

ユウ いつもありがとう。

チカ どうしたの？急に。

ユウ いや、なんか…。

チカ ん？

ユウ ううん。なんでもない。

チカ …。照れてる？

ユウ 照れてない。

チカ うそだあ。

ユウ 照れてない。

チカ はいはい。そういうことにしといてあげる。ほら、顔洗っておいで。
ユウ うん。

ユウ、一度はける。

チカ、布団等かたして、ご飯の準備をする。

ユウ、登場。

ユウ 今日は何？

チカ トースト。だし巻き卵とスクランブルエッグどっちがいい？

ユウ だし巻き卵。

チカ 残念、今日はスクランブルエッグ。

ユウ そっか。

チカ はい。コーヒー。

ユウ ありがとう。

チカ 何も入れないでよかったよね？

ユウ うん。

二人、席に着く。

二人 いただきます。

二人、思い思いにご飯を食べる。メニューは、トースト、スクランブルエッグ、サラダ、味噌汁（ユウのみ）、コーヒー。

チカ ねえ、ユウ君。

ユウ うん？

チカ 時間大丈夫？

ユウ あっ、やばい…。

チカ 片づけやっとかから早く準備してきなよ。

ユウ うん。ありがとう。よろしく。

ユウ、慌ただしくご飯を食べ終え、はける。

チカ、食べ終わった食器をまとめ始める。

ユウ、はけ口から顔をのぞかせる。

ユウ 色々ありがとう。じゃあ、行ってくる。
チカ うん行ってらっしゃい。また後でね。
ユウ また後で！

ユウ、完全にはける。

☆場転

チカ、舞台上の凸に腰掛ける。
ユウ登場。

ユウ ごめん。おまたせ。
チカ うん。大丈夫。学科の友達とご飯してたから。
ユウ そっか。よかった。
チカ どうだったバイト。
ユウ 相変わらずヒマだった。
チカ そっか。
ユウ うん。このままじゃ潰れるんじゃない？
チカ そんなにヒマだったの？
ユウ うん。
チカ ふーん。
ユウ ああ、そういえば。
チカ 何かあった。
ユウ カップルがバイト中にいちやついてた。
チカ ああ。
ユウ 働けて話だよ。
チカ あははは。
ユウ チカは？
チカ うん？
ユウ なんかおもしろいことあった？学校。
チカ うーん…。あつ、そういえば。
ユウ うん？
チカ さっき言ってた学科の子が。
ユウ うん。
チカ カレシができたって。
ユウ へえ、おめでたいね。
チカ あははは。そうだね。伝えておくよ。

ユウ え？「私の彼氏がおめでとうって言ってたよ」って伝えるの？俺、面識ないの
に？
チカ へんかなあ？
ユウ 変でしょ。
チカ そっかあ。

間

チカ あつ。
ユウ どうしたの？
チカ そういえば、お味噌が切れてた。
ユウ え、マジで！？
チカ まじ。
ユウ 買わないとじゃん。
チカ そうだけど。そんなに大事？お味噌。
ユウ 当たり前じゃん。
チカ そうかなあ
ユウ 朝ごはんに味噌汁ないとか信じられない。
チカ インスタントでいいじゃん。美味しいよ。最近のインスタントみそ汁。
ユウ イヤ。インスタントじゃダメ。
チカ なんで？
ユウ 温かみがない。
チカ …。
ユウ インスタントは画一的な味がする。もちろん美味しいけど、朝イチで飲むタイ
プの味じゃない。手作りならではの温かみがほしい。
チカ …。
ユウ えっ？何？
チカ ユウ君って自分で味噌汁作ったことあるの？
ユウ …。
チカ 朝ご飯、自分で作ったことないでしょ？
ユウ …。
チカ 私が行ってない日って冷蔵庫の中身減ってないけど…。
ユウ …。
チカ …。
ユウ …。
チカ …。

ユウ チカのみそ汁が飲みたいなあつて。

チカ えっ？プロポーズ？

ユウ 違うわ！

チカ 知ってる。

ユウ ……

チカ ユウ君にそんな甲斐性ないもんね。

ユウ ……

チカ 冗談だよ。

ユウ チカの冗談は洒落にならない…。

チカ あははは。ちなみに、食パン賞味期限切れそうだったから冷凍庫に入れておいたよ。使いかけのカレールーも。あまったご飯は小分けにして冷凍庫にいれてあるから。

ユウ 何から何まで面目ない。

チカ いえいえ。じゃあ、そろそろ行くね。

ユウ うん。バイト頑張つて。

チカ ありがと。帰りに味噌買つておくね。

ユウ えっ、いいよ。悪いし…。

チカ どうせ帰り道だから。

ユウ いや、でも。

チカ ユウ君この後、センパイと会うんでしょう？いつ帰れるかわかんないって言うたし。

ユウ うーん。じゃあ、お願いしていい？

チカ もちろん。おまかせあれ。

ユウ ありがと。あ、そうだ。これ。

ユウ、 財布を取り出す。

ユウ 財布ごと渡しとくから、お金、ここからだして。

チカ いやいや。

ユウ ……

チカ そう簡単に人にお財布わたしちゃダメだよ。

ユウ 簡単じゃないよ。チカならいいかなつて。

チカ ダメ。

ユウ え、でも。

チカ ダメなものだめ。それにお味噌のお金くらい、私がはらうよ。
ユウ いや、それは…

チカ その代り、今度何か御馳走して？
ユウ …分かった。
チカ ありがと。じゃあ、またね
ユウ うん。また。

チカ、はける。

場 3 出会い

ST 登場

ST おあ、そこのお兄さん。

男、気が付かない。

ST お兄さん、今ヒマかい？
ユウ え？いや、あの。
ST キミに見せたいものがあるんだ。
ユウ はあ。

ST ああ。決して損はさせない。

ユウ …。

ST この話は別に誰にでもしているわけではない。

ユウ …。

ST きちんと向こうの許可もとってある。

ユウ …？

ST 幾ばくかの金銭をもらえるのなら、一刻程キミの自由にしてもかまわない。
ユウ …っ。そういうの、間に合ってます。

ST を無視してはけようとする。

ST キミが何を想像してるのかはわからないが、あれはキミのほしいものだと思う
がね。

立ち止まる。

ユウ 俺のほしいモノ…。

ユウ まあ、騙されたと思ってついてきたまえ。なに、悪いようにはしないさ。

ユウ …。

ユウ ふむ。では行くか。

二人、はける。

二人階段から降りてくる。

ユウ あの、ここは？

ユウ 打ち捨てられた倉庫だな。

ユウ はあ。

ユウ …。

ユウ そんなこと見ればわかりますけど。

ユウ それもそうだな。

ユウ …。

ユウ こういうことをするにはお誂え向きだと思いがね。

ユウ …。

ユウ なに、冗談さ。そう怒るな。

ユウ タチの悪い冗談ですね。

ユウ ふむ。ご機嫌ナナメかな？

ユウ …。

ユウ さて、着いたぞ。

ユウ ここが。

ユウ 多少の物音では外に聞こえない。安心したまえ。

ユウ …。それで、俺に見せたいものっていうのは。

ユウ そう焦るな。女性に嫌われるぞ。

ユウ …。

ユウ キミに見せたいものはコレだ。

ユウ 舞台上の黒い布をはがす。中にはボロボロの女性が横たえている。むき出しの手足は汚
れ、元は白かったであろう衣服はボロボロになり原型を留めていない。

ユウ え。

ユウ …。

ユウ …。
ユウ …。
ユウ 何だこれ…。
ユウ …。
ユウ 俺に見せたいものって…。
ユウ ああ。ウチの唯一の商品だ。
ユウ 商品…。
ユウ そうとも。商品だ。
ユウ …。
ユウ 約束通り好きにして構わない。お代は帰る時でいい。キミが払いたいと思う金額をおいていつてくれたまえ。
ユウ ちょっと待
ユウ どうした？何か疑問でも？ああ、別に壊さなければ好きにしていいいさ。思う存分
ユウ 違う！そうじゃない！
ユウ なんだ？他人に見られないと興奮しないのか？
ユウ ふざけるな！
ユウ …。
ユウ こんな状況、許されると思ってるのか！こんな人の尊厳をふみにじるようなこと、本気でっ…！
ユウ …。
ユウ だいたい彼女の意志はどうなんだ。
ユウ 許可はとってあると言ったはずだが。
ユウ 本当か？キミはそれでいいのか？
ユウ …。
ユウ どうした？
ユウ …。
ユウ …。
ユウ なあ、なんとか言ってくれ。
ユウ …。
ユウ なあ、なぜ彼女は話さない？お前が許可してないからか？
ユウ ふむ。面白い推論だな。
ユウ どうなんだ。
ユウ 答えはノーだ。
ユウ なら、どうして彼女は何も言わない？言葉を発しない？
ユウ 理由は簡単だ。彼女は言葉を発することができないからだ。身体の構造上な。本当なのかそれ。

ユウ この場で嘘をついてどうなる。

ユウ 彼女が意志表示をできないことをいいことに…。許されると思ってるのか！

ユウ 何に。

ユウ つ。

ユウ 何に許されるというのだ。

ユウ …。

ユウ 警察か？国家か？

ユウ 違う。そうじゃない。彼女にだ。

ユウ …。

ユウ 身動きが取れない状態で慰みものにされて。彼女だって必死に生きているはずだ。話すことができず、他者との会話もままならない状態で。それをお前は…

ユウ キミはすごいな。

ユウ は？

ユウ いや、キミはすごいよ。実にすごい。四肢が十二分に機能するその体で普通に

生活できているのだから。音を発することのできる声帯で他者との会話ができ

ているのだから。

ユウ 何を言って…。

ユウ 何をだって？先ほどキミが言ったコトバだが？

ユウ …。

ユウ お逃え向きだろう？キミのそのちっぽけな心を満たすのに。

ユウ …。

ユウ どうだい？満足できたか？

ユウ 気分が悪い。帰る。

ユウ そうか。満足してくれたか。それはよかった。またのお来しを。

ユウ ふざけたことを。誰が来るか。

ユウ また来るさ。そのちっぽけな心を満たしに。

ユウ …。

ユウ、 財布を押し付けはける。

ユウ ふむ…。ああ、もう出てきてくれてかまわんよ。

女、 男のはけたはけ口と反対のはけ口からでてる。

ユウ

別にとって食べやしないさ。

チカ

あの、見せたいものって…。

ユウ ああ、あれだ。

チカ …。

ユウ 面白かっただろう？

チカ …。

ユウ あれは、ああいう男だ。

チカ 違います。ユウくんは

ユウ 違うなさ。

チカ 私の知るユウくんはこんな

ユウ キミは彼の何を知っている？

チカ …。

ユウ まさか、彼のすべてを知っているとしても？

チカ …。

ユウ もしかしてキミはユウくんとやらのすべてを知っているつもりだったのかい？

チカ そんな言い方…

ユウ 他人にすべてをさらけ出す人間なんていやしないさ。

チカ …。

ユウ それはキミが一番よく知っていることだと思いがね。

チカ …っ。

ユウ まあいいさ。これ、返しておいてくれたまえ。

ユウ

ユウ 財布を押し付ける。

チカ、財布を抱え、うつむきながらはける。

ユウ まあ、最初はこんなものか…。

ユウ 二人と反対へはける。

ミカ ……。

場 4 夢現

チカ どうしたの？

ユウ 何が？

チカ なんか、イライラしてるようにみえたから。

ユウ ああ。
チカ …。
ユウ …。
チカ …。
ユウ お前はこんな人間だって言われた。
チカ …。
ユウ つまらない、ちっぽけな人間だって。たいしてよく知らない人間に。
チカ …。
ユウ 別に自分が大層な人間だとは思わないけど。でも、それを見ず知らずの人に言われるのはムカつく。お前は俺の何を知ってるんだって思う。赤の他人なのに。そうだね。
チカ 自分の子供が何考えてるか分からないって言う親がいるくらいなのに、お前なんか何がわかるんだよ…。
チカ …。
ユウ …。
チカ デートしよ。
ユウ え？
チカ 気分転換。ヤなことは忘れるに限るよ。
ユウ …。
チカ だから、デートしよ？
ユウ …。
チカ 嫌だった？
ユウ ううん。ありがとう。
チカ いいよ、お礼なんて。
ユウ チカに助けられてばかりだな。俺。
チカ そんなことないよ。それよりも、どこ行く？何したい？
ユウ うーん。急にいわれても…
チカ それもそっか。とりあえず、出かけよ？
ユウ そうだね。準備してくる。
チカ うん。
ユウ あつ。財布…。
チカ え？
ユウ ああ、いや、財布が…
チカ ああ！はい。
チカ 財布をとりだす。

ユウ え？なんで？

チカ なにか？

ユウ なんでチカが財布持ってたの？

チカ なんてって…。昨日出かけたときにこれで払ってって。

ユウ そうだっけ？

チカ うん。憶えてないの？

ユウ うん。

チカ 変なの。

ユウ …。

チカ ？

ユウ まあ、いいや、準備してくる。

チカ うん。

ユウ、退場。

チカ …。

チカ、ユウと同じはけ口から退場。

ナナ、ミカを台車に載せて登場。

ナナ どうだった？この前きた子たち。

ミカ …。

ナナ へえ。そうなの。私のときとは反応が違うわね。嫉妬しちゃうわ。

ミカ …。

ナナ ありがと。そういうことにしといてあげる。

ミカ …。

ナナ ふふ。冗談よ。で、どっちが好みなの？

ミカ …。

ナナ そう。

ミカ …。

ナナ 別に。意外でもなんでもないわ。そうだろうと思ってたもの。

ミカ …。

ナナ もちろん。なんでもお見通しよ。

ミカ …。

ナナ チョット、いつまでそこにいるつもり？趣味が悪いわよ。

ST 失礼。別に盗み聞きするつもりはなかったのだが。

ST 登場

ナナ 毎回毎回。あきれるわ。

ST 別に聞かれて困るものでもないだろう？今更。

ナナ そういうことじゃないの。気分の問題よ。

ST ふむ。

ナナ どうせ言っても無駄なのでしょうけど。

ST 失礼な。学習はするさ。実行するかしないかは別だが。

ナナ 意味ないじゃない。

ST 無意味ではないさ。学習はしている。

ナナ つまり、わざとだと。

ST …。

ナナ 性格悪いわね。モテないわよ。

ST かまわんよ。

ナナ はあ…。で、何の用？なにかあるのでしょ？

ST ああ、感想を聞きに。

ナナ この前の子たち？

ST ああ。

ST …。

ST ふむ。なるほど。それはよかった。どうする？

ST …。

ST いやなに。接触は控えた方がよいのか？

ST …。

ST 了解した。

ナナ 用事は済んだ？だったら早く出て行ってくれないかしら。

ST …。

ナナ チョット、聞いてるの？

ST ああ、聞いてるとも。

ナナ ならとつとと出て行って。

ST ふむ。まあ、いいだろう。ほどほどにな。

ST 退場

ナナ サイッテー。

場5 願い、望み

ユウ、登場。

ナナ あら。キミは。

ユウ …。

ナナ どうしたの？この子に会いに来たの？

ユウ ええ。はい。

ナナ そう。

ユウ …。

ナナ じゃあね。またあとで。

ナナ、はける。

ユウ キミは。

ミカ …。

ユウ キミはなんでこんなところにいる。

ミカ …。

ユウ しゃべれないんだっけ。

ミカ …。

ユウ あの人は、自分の欲望を満たすためにキミを利用してる。

ミカ …。

ユウ そして、用済みになった途端キミを棄てる。それでいいの？

ミカ …。

ユウ あの女の人はどうだか分からないけど。この前の、あの人はきっとそうだと思う。

ミカ …。

ユウ いらなくなった途端にキミを棄てる。

ミカ …。

ユウ …。

ミカ …。

ユウ あの時。あいつに連れてこられた時。キミのこと、キレイだなんて思った。キミはこんなところに囚われていていいはずがない。

ミカ
・・・。

ユウ
理由があるんだろ？キミをこんな所にいさせ続ける理由。

ミカ
・・・。

ユウ
キミの声が聴きたい。たった一言でいい。キミの声を聞かせてくれ。俺のこと、
必要だって言ってくれ。

ミカ
・・・。

ユウ
。。。無茶言ってごめん。

ミカ
・・・。

ユウ
。。。。

ミカ
・・・。

ユウ、座り込んでミカに向かって手を伸ばす。

ユウ
もし、

ST登場

ユウ
もしキミが望むなら…。

ST
ああ、きてたのか。いらつしやい。

ユウ
あんた…。

ST
ふむ。私の予告した通りになったな。

ユウ
…。

ST
何一つ恥ずべきことではない。自分に素直になりたまえ。

ユウ
…。

ST
ソレはキミの全てを受け入れる。

ユウ
…。

ST
キミが何を選択するかは自由だ。

ユウ
…。

ST
ただ、やりすぎには注意したまえ。越えてはいけない一線というものは確かに
存在する。

ユウ
超えてはいけない一線。

ST
ああ。それを超えた瞬間、この時間は終了する。

ユウ
…。

ST
気を付けたまえ。では、失礼する。よい時間を。

ST退場。

ユウ 越えてはいけない一線。

ミカ ・ ・ ・

ユウ チカ…

ユウ、退場。

ミカ ・ ・ ・

チカ、登場

チカ こんにちは。

ミカ ・ ・ ・

チカ 以前来た時、全然お話できなかったの。

ミカ ・ ・ ・

チカ ユウ君のこと誤解したままだったらイヤだなあって。

ミカ ・ ・ ・

チカ ユウ君。いい人なんですよ？困ってる人をほっとけない。

ミカ ・ ・ ・

チカ この前だって、バイトがあるのに、迷子の女の子をみつけたらしくて。バイト
そっちのけで女の子の母親探してたんですよ？

ミカ ・ ・ ・

チカ おかげでバイトは遅刻。店長さんにこっぴどく叱られて。

ミカ ・ ・ ・

チカ 理由を信じてもらえたから、怒られただけで済みましたけど。

ミカ ・ ・ ・

チカ そんな漫画みたいな理由で遅刻するヤツ見たことないって笑われたって。

ミカ ・ ・ ・

チカ そういう人なんです。彼は。

ミカ ・ ・ ・

チカ だから、誤解しないでほしいなって。

ミカ ・ ・ ・

チカ …。

ミカ ・ ・ ・

チカ しゃべれないんですたっけ。

ミカ ・ ・ ・

12 月企画公演 「鏡」

チカ すみません。

ミカ ・ ・ ・

チカ え？

ミカ ・ ・ ・

チカ みか…？

ナナ、
登場。

ナナ あら、あなたは…。

チカ …。

ナナ こんにちは。あなたがチカちゃん？

チカ あ、はい。誰から名前を？

ナナ さあ、誰でしょうね。

チカ …ミカ。

ナナ …。

チカ ミカさんですか？

ナナ あなた、わかるの？

チカ なんとなくですけど。

ナナ そう。すごいね。

チカ はあ。

ナナ そう、貴女が…。

チカ ？

ナナ いえ、なんでもないわ。こちらの話。貴女はミカに会いに来たの？

チカ ええ、はい。

ナナ 何かつかめたかしら？

チカ …。

ナナ ミカは貴女のほしいモノをくれるわ。

チカ ほしいモノ…。

ナナ ええ。貴女が心から望めばですけど。

チカ …。

ナナ もう遅いわ。帰きなさい。

チカ …。

ナナ ユウ君が心配するわよ。

チカ あの。

ナナ ？

チカ また来てもいいですか？

ナナ ええ、もちろん。またねチカちゃん。
チカ はい。

チカ、退場

ミカ ・ ・ ・

ナナ そう。

ミカ ・ ・ ・

ナナ どうしたの？

ミカ ・ ・ ・

ナナ ・ ・ ・

ナナ そう。別に無理に話す必要はないのだけど。

ミカ ・ ・ ・

ナナ あまり思いつめないでね。

ミカ ・ ・ ・

ナナ 貴女がやりたいことをすればいいわ。

ミカ ・ ・ ・

ナナ 私は貴女の味方よ。

場 6 決意も覚悟も

チカ いいよ。

ユウ え？

チカ ユウ君はユウ君の思った通りにすれば。

ユウ ・ ・ ・

チカ ヒーローだもん。困ってる子、ほっとけないでしょ？

ユウ ・ ・ ・

チカ 私は、そんなユウ君に救われた。そんなユウ君だから好きになったの。

ユウ ・ ・ ・

チカ おかしいなって思っているけど、どうすることもできなかった。行動するだけの
ユウ 気力も体力もなくて、このまま朽ち果てるんだって。あきらめてた。
チカ ・ ・ ・

チカ そんな時、ヒーローが現れたんだ。

ユウ

…。

チカ

大きくて、広くて、眩しくて、暖かった。人がもってるぬくもりってこんなに暖かいんだって。差し出してくれた手のひらがとても大きく感じた。

ユウ

…。

チカ

きっとユウ君は私がお願いしなくても助けてくれたんだろうなって。そう思うよ。

ユウ

ちがうよ。そんなこと…。

チカ

違うないよ。ユウ君に助けられた子は沢山いるよ。見て見ぬふりをする人がたくさんいて、伸ばした手をつかんでももらえなくて、心を殺して、ただ、息をするだけのお人形になる子がどれだけいると思う？

ユウ

…。

チカ

私は、伸ばした手をユウ君がつかんでくれたから、今、ここにいる。生きてるんだよ。

ユウ

…。

チカ

だから、ためらわないで。一度差し出した手を払われたからって、あきらめないで。

ユウ

…。

チカ

少し強引なくらいがちょうどいいんだよ。男の子は。

ユウ

…。

チカ

…。

ユウ

助けたい子がいるんだ。

チカ

…。

慰み物にされてる。このままじゃ、彼女は棄てられる。そう思う。彼女を助きたい。今の俺じゃあ、助け出したところで、どうすることもできないけど。それでも。

チカ

大丈夫。私にできること、ある？

ユウ

でも、

チカ

バカだなあ。

ユウ

…。

チカ

ユウ君が助けてくれなかったら、私、今ここにいないんだよ？

ユウ

… いいの？

チカ

当たり前だよ。

ユウ

ありがとう。

チカ

うん。

時間との勝負になると思う。相手には俺の仕業だつてばれる。だから、当分、彼女のことまかせていい？

チカ もちろん。
ユウ ありがとう。きちんと帰ってくるから。
チカ うん。信じてる。
ユウ 三日後。それまでに準備を。
チカ うん。頑張ろうね。

場 7
問 答

ナナ あら。
チカ こんばんは。
ナナ こんばんは。どうしたの？
チカ ……
ナナ ……
チカ ……ほしいモノ。
ナナ ……
チカ ほしいモノってなんですか？
ナナ ……
チカ 私はこの現状に十分満足してます。
ナナ ……
チカ ユウ君と一緒にいれる。特別なことなんかなくていい。隣にいれるだけで
ナナ 重症ね。
チカ え？
ナナ ここまで深刻なんて。
チカ ……
ナナ 滑稽ね。私もこんな感じだったのかしら？
チカ あの、何を言って…。
ナナ 現状に満足…。
チカ ……
ナナ それは本心かしら。
チカ 何を言って…。
ナナ ユウ君と恋人なのでしょう？
チカ はい。
ナナ 本当に？
チカ ……

ナナ 現状は本当にあなたが望んでいるモノかしら。

チカ …。

ナナ 彼は何を見ているのでしょうかね。

チカ …。

ナナ 貴女は何を見てほしいのかしら？

チカ …。

ナナ …。しゃべりすぎたわ。

チカ …。貴女は。

ナナ ナナよ。

チカ ナナさんはどうしてミカさんと一緒にいるんですか？

ナナ 望みだから。

チカ …。

ナナ 彼女と一緒に終わることが私の望み。たったひとつの願い。

チカ おかしいです。そんなの。

ナナ 貴女程ではないわ。

チカ …。

ナナ あら。気分を害したかしら。

チカ …。

ナナ お帰りなさい。ユウ君が心配するわよ？

チカ …つ。

チカ、はける。

SF登場。

ナナ 自覚はあるわ。

SF …。

ナナ 柄にもないことをしたわ。らしくない。

SF …。

ナナ はあ…。

SF しおらしいな。

ナナ うるさい…。

SF …。

ナナ …。

SF どうする？そろそろ時間だが。

ナナ 立ち会うわ。いつもと違って無関係ではないもの。

SF そうだな。今回は特に。

12 月企画公演 「鏡」

舞台上にはナナとミカ。ナナ、気だるげに満足げな雰囲気でくつろいでいる。

ナナ ねえ。何を見てるの？

ミカ ……。

ナナ 分かるわよ。ずっと一緒なもの。

ミカ ……。

ナナ 物好きね。

ミカ ……。

ナナ へえ、否定しないんだ。

ミカ ……。

ナナ あら、フォローはしてくれるのね。気にしないでいいのに。

ミカ ……。

ナナ あなたは私を棄てないわ。そうでしょ？

ミカ ……。

場 8 日常の壊れる日

ナナ ……。

ミナ 初めてではないか？これ程関与したのは。

ナナ そうね。

ミナ ようこそ。

ナナ やめてちょうだい。今回ばかりで十分よ。

ミナ ふむ。残念だ。

ナナ 思ってもないことを。

ミナ そうでもないさ。

ナナ ……。

ミナ では、準備をいってくる。

ナナ 手伝うわ。

ミナ いや、結構だ。

ナナ ……。

ミナ 少し休みたまえ。慣れないことはするべきじゃないさ。

ナナ 貴方もね。

ミナ ……。

ナナ お言葉に甘えるわ。

ナナ え？

男、駆け込んでくる。

ナナ …。

ミカ …。

ユウ あいつはいないな。

ミカ …。

ユウ なあ、あんた、彼女のことがわかるんだろ？俺に教えてくれ。何て言ってるんだ？

ナナ …。

ユウ まあ、おい。聞こえてるだろ。

ナナ 何か？

ユウ 何かじゃなくて。彼女の言葉を伝えてくれ。

ナナ なんで？

ユウ ここから彼女を連れ出す。

ナナ …。

ユウ こんな状況間違ってる。彼女はここにいるべきじゃない。しかるべき所で保護されるべきだ。だから

ナナ それを決めるのは貴方じゃないわ。

ユウ だから、彼女の言葉を話してくれといっている。

ナナ …。

ユウ あんただってこんな状況望んでないはずだ。

ナナ …。

ユウ アテはある。あいつからかくまえる。自信はある。安全も保障する。

ナナ はあ…。

ユウ だから、頼む、彼女の言葉を。声を。

ナナ こえ…。

ユウ ああ、そうだ。

ナナ だそうよ。どうするの？

ミカ …。

ナナ まあ、そうよね。けど、どうするの？

ミカ …。

ナナ それ、私がやるの？

ミカ …。

ナナ 私の役目ではないのだけど。

・・・。

ミカ はぁ。わかったわよ。今回だけよ。

ナナ なんだって？

ユウ 行かないそうよ。

ナナ なぜ。

ユウ なぜって。これがこの子の望んだ結果だから。

ユウ こんな状況が。

ナナ ………。

ユウ こんな状況を本当に彼女が望んでいるのか。仕方なく、こうせざるを得ないんじゃないのか。でなければ、こんな仕打ち

ナナ 埒があかない。どうにかならないの。

ミカ ……。

ナナ はぁ？チョット、どうにかしなさいよこれ。本来の私の役目じゃないのだけど。

あなた役目でしょ。この始末。

ST登場

ST 退場願おうか。

ユウ お前…。

ST それ以上の行為は許されていない。キサマに許されているのは、この女を慰み者にする事だけだ。

ユウ 何をいつて。

ST 分からないなら何度でも言おう。キサマに許されているのは、この女を慰み者にする事だけだ。

ユウ ……。

ST ハズレだな。どうやらキミが望んだ人間ではなかったようだ。この男は。

ユウ は？

ST 失格だということだ。キサマではない。

ユウ 何を言って

ST ということは片割れの女の方が正解か。

ユウ ちよつと待て何の話をしている。

ST あぁ、彼女も来ているよ。今日はちょうどその日だろう？忘れちゃいないさ。

ユウ おい、話を

ST 入ってきてもらったらどうだ？もう会話できるのだろう？

ユウ 会話できる…？

女登場

ユウ えっ？なんでチカがここに？

チカ …。

ST ようこそ。

チカ …。

ユウ え、いや、なんで…

ST そろそろ時間だ。私たちは失礼するよ。

ST はける。

ナナ 楽しんでおいで。じゃあね。また後で。

ナナ はける。

チカ、ミカに近づく。

ユウ チカ？何してんだ。

チカ …。

ユウ お前、なんでここに。

チカ …。

ユウ だって、お前は俺の

チカ じゃあね。ユウ君。

チカ、ミカに唇に自分の唇を近づける。

☆暗転

場 9 遡行

☆明転

役者

本日は劇団こだま 2016 年 12 月企画公演「鏡」にお越しいただき誠にありがとうございます。どうぞお席にておまちください。

一礼。役者はけずに一点を凝視。表情が抜け落ちる。
糸が切れたように崩れ落ちる。

ST 台車を転がしながら登場。崩れ落ちた役者を台車に載せ、舞台の凹部分に打ち捨てる。

目星はつけたさ。男と女どちらが好みだい。そうカッカするな。冗談さ。まあ、
楽しみたまえよ。これはキミの望んだ結果だろ？

ナナ登場

ナナ あの、これは？

キミが望んだモノだ。

キミの好きにして構わない。

好きに…。

ああそうだ。コレはキミの全てを受け入れてくれる。

美しいところも醜いところも。恨みも妬みも嫉みも何もかも。

…。

ソレはキミの全部を赦してくれる。キミがソレを受け入れるのなら。

ナナゆつくりと近づく。繊細で壊れてしまいそうなモノを扱うように。指先から少しづつ。
最初はソレの頬に。繊細に。徐々に大胆に。ソレを押し倒し馬乗りに。指先は徐々に下
おりにいき、首に達する。指先には徐々に力がこもり、圧迫していく。顔はかげり表情は
みえない。嬉しそうに、悲しそうに。それでもなお、受け入れてくれるソレに…。

☆暗転

☆明転

役者 本日は劇団こだま 2016 年 12 月企画公演「鏡」にお越しいただき誠にありがと
うございます。もう間もなく開演いたします。どうぞお席にておまちください。

一礼。役者はけずに一点を凝視。表情が抜け落ちる。

糸が切れたように崩れ落ちる。

女性登場。

女性 貴女には何が見えているのですか？何が聞こえているのですか？どんな匂いで

すか、どんな味ですか。貴女はこの世界に何を感じてるのですか。私はそれが知りたいのです。だからどうか、私と一緒にいてください。

☆暗転

場 10 エピローグ

☆明転

役者 本日は劇団こだま 2016 年 12 月企画公演「鏡」にお越しいただき誠にありがとうございます。もう間もなく開演いたします。どうぞお席にておまちください。

一礼。

ST 目星はつけたさ。男と女どちらが好みだい。そうカッカするな。冗談さ。まあ、楽しみたまえよ。これは、キミの望んだ結果だろ？

ST 退場。

☆暗転

終幕